

平成 30 年度第1回菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

日時 平成 30 年 6 月 12 日（火）13 時 30 分～15 時 30 分

場所 菊池市役所 2 階 204 会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

会議の公開および会議録の確認

会議は公開、記録は要点筆記とし、会長・副会長確認後に H P 等で公開とすることを承認

3. 議 題

(1) 『癒しの里きくち創生総合戦略』の評価・検証について

資料 1 にて事務局より説明

質疑（気になる数値、今後の方向性など）

(委 員)	市内 3 高校への進学率が上がらない理由はどこにあるのか。
(事務局)	昨年から、市内の高校、中学校を集めて高校の魅力アップの会議を行っている。そこでの意見としては、各高校の取り組みを知らないということが言われた。また、市内全中学 2 年生を対象に、各高校の取り組みについて発表を行い、そのアンケートでは知らなかったのが良かったという意見が多かった。現在は、市の広報に学校ごとの情報を掲載するなど、情報発信を行っている。
(委 員)	高校の特色、魅力はあるのだが、子どもに伝わっていなかったということか。
(事務局)	各学校で PR は行っていたと言われていたが、伝わってはいなかった。
(委 員)	以前イベントで、発表やプレゼンテーションを聞いたが、非常に上手で高いレベルの研究をされていた。いい所もたくさんあるので、しっかり PR をしていけばいいと思う。
(委 員)	すくすく子宝祝い金の内訳はどうなっているのか。
(事務局)	子育て支援課で行っている事業。第 3 子からで、10 万円。第 4 子が 12 万円と共通商品券が 3 万円。第 5 子については 15 万円と共通商品券が 5 万円。第 6 子以降は 20 万円と共通商品券が 10 万円を出生のときに差し上げている。事業費については、市の単独費用です。
(委 員)	起業支援セミナーについて、起業するまでと起業してからの支援をどのようにしていくかが課題とあるが、起業といっても事業計画、収支計画、業種特性などいろんな業種・業界によって簡単にはいかないものである。ハンズオンでやっていく必要があり、専門家をつけながら軌道に乗るまでの手前の教育が非常に重要である。このセミナーを通して何軒くらい起業に行きついたのか。
(事務局)	このセミナーは、女性創業支援に限って行ったもので、創業支援の前の段階のもの。具体的な起業ではなく、興味がある方を対象としたものである。

(委 員)	観光サイトのホームページについて、数値目標の 200,000 件は観光協会のホームページのアクセス数も含んでいるのか。
(事務局)	数値目標の 200,000 件は、市のホームページをリニューアルしたときに設定したもの。観光協会のアクセス数が入っていない。
(委 員)	これから観光のホームページを充実させるということは考えていないのか。
(事務局)	フェイスブックやインスタグラムなど発信の仕方も多様化しており、伸びていない数値も見えてきたので、今後庁内で協議する必要がある。今後、観光協会や旅館組合と協力して数字が上ればと思う。
(委 員)	観光協会もホームページを一新しようと思っている。外国人向けの多言語への対応を考えているので、協力して頂ければと思う。
(委 員)	対外的な発信を行うトータル的なプロモーション課が必要ではないか。横串を通す的なもので、対外的な発信に力を入れて頂きたい。
(委 員)	国内宿泊者数にビジネスホテルも入っているのか。
(事務局)	市内の全ての宿泊施設が入っています。
(委 員)	ビジネスホテルは稼働率が 90% 近く、年間約 2 万人の数値が加わっており、元々の温泉旅館だけでは減少している。計画期間内でも順次対策を打たないといけない。 べんりカー・あいのりタクシーの利用区域を広げた割には減少している。これだけ数値が離れてきているところの対策はどうなっているか。 また、要介護の認定率の目標値が 0.1% 下げとなっているが、目標値としてはどうなのか。
(事務局)	交通体系については、3,000 世帯を対象にアンケートを実施し、現在分析を行っている。ダイヤ改正など年度ごとに対応していきたい。
(事務局)	要介護の認定率は、高齢化が進む中で現状維持が目標となっているためである。
(委 員)	菊池の宿泊客の主体は温泉旅館であり、10 年後にどれだけの温泉旅館が残れるのかと不安である。温泉旅館は菊池の観光の基点となるものであり、無くなるとなれば全体像が崩れてしまう。旅館自体が次へ繋ごうとしていないのが残念であるが、行政もいろんな事業に取り組むように指導する必要がある。外国人宿泊客が伸びているのも大手の旅館が受け入れを行っているからであり、早急に手を打つ必要がある。
(事務局)	温泉旅館の後継者がいないというのは中長期的な課題。喫緊の課題は旅館の覆面調査を 2 年間行った中で、雇用の問題とサービスの充実であった。温泉の質は評価が高いので、事業継承の話も含めて取り組む必要がある。
(委 員)	本市は人口が減る中で高齢者の数だけが維持するとのことである。そこで、まちなかに健康高齢者を誘導する仕組として、エリアごとにユニット化し、それを全体に広げていけばいいと思う。 また、企業で課題となっているのは、労働人口の減少で歯止めが利かないということであるが、本市の中小企業では、外国人労働者の受け入れ体制に不安もある。企業側は労働力をほしがっていて、この会議

	でどうやって地域に入れるかなど労働人口対策を検討していただきたい。組織的に勉強会の開催など、受け入れ体制の充実を図ることが必要だと思う。
(事務局)	移住定住に関する現状は、老後は田舎暮らしという方が多い。子育て世代をターゲットとしているが、農業をされている方が多く、仕事があるかということが問題で、地方でもできるクリエイティブな仕事に注力し、子育て世代の移住定住に向けて努力している。 婚活事業も行っており、エリア的な考え方も必要と思うが、今のところは空き家バンクの整備をきちんとやっていきたいと思っている。
(委 員)	県の統計のデータで見ると将来菊池市の人口は減少し、合志・菊陽・大津は人口が更に増えており、菊池市は吸収される側にある。労働力を増やそうとすることはかなり難しいので、防止策に取り組んだが効果は高いと思う。
(会 長)	いろんな視点から提案があったが、高齢者に住みよいまちづくり、海外からの研修生の受け入れなど、今後もこの会議の中で、話していきたいと思う。 全体を見ると、比較的指標自体はいくつかの指標を除いて、概ね計画を満たしている。 また、いくつか指標を下回っているものもあり、なかなか難しいとの説明もあったが、最終的に下回っていたらペナルティはあるのか。
(委 員)	総合戦略計画自体に目標値を下回ったからといってペナルティはないと思うが、交付金事業が採択されないということは考えられる。 参考までに、次期計画という動きも出てきているので、現状を踏まえて次のことを考えていく必要がある。
(会 長)	指標が到達できないものについては、到達するためにどのような努力を行ったのかを検討する必要がある。
(委 員)	大きなオレンジリングを付けている店舗があったが、現在は減っているような気がする。
(事務局)	大きなオレンジリングの数については、伸びていない。一度講座が終わってしまうと続かない状態にある。今後何らかの対策を考えていく。

(2) 地方創生推進交付金事業・地方創生拠点整備交付金事業の評価・検証について

資料 2 にて事務局より説明

(委 員)	サテライトオフィスは、元々どういう職種をターゲットとしていたのか。
(事務局)	龍門小学校跡地を拠点整備交付金事業で整備を行ったが、IT 関係を主とし場所の制約を受けない業種をターゲットとしている。企業版のお試しツアーも行っており、数社来られたが進出までには至っていない状況。
(委 員)	田舎暮らしにあこがれる人もいるので、移住・定住と連動してがんばって欲しい。
(会 長)	アーティストの方への呼びかけはどのように行っているのか。

(事務局)	龍門小学校跡でアートのイベントを行っており、そこを通じて呼びかけを行っていたが入居には至らなかった。芸術関係の地域おこし協力隊もおられるので、そこを通じて呼びかけている。
(委 員)	癒しの里推進交付金事業に、まちの駅・たびの駅事業とあるが具体的にどのような内容か。
(事務局)	まちの駅とは、まちなかに立ち寄りやすいトイレ・休憩施設をつくりそこで情報発信を行うもので、たびの駅は、旅館の改修を行い、商店街と温泉街をつなぎ回遊させるための事業。この中で、旅館の覆面調査などを行っており、サービスの向上を図っている。
(委 員)	覆面調査の結果は施設の方へ開示しているのか。
(事務局)	当該施設の順位だけを報告している。また、トップだけは全体の中で表彰している。評価内容は全部公表しており、指摘事項もセミナー形式で伝えている。
(会長)	その評価を受けて、きちんと改善していこうという気持ちをもたれるのかが問題ということか。
(事務局)	2 年連続行っており、会社独自でも見直しに入られているところもある。繁盛店づくりで取り組んでいるところもあり、意識改革につながっているところもある。
(会長)	特にハード整備については、昨年末に完成したもので、成果は本年度以降に現れるもの。きちんと成果が出るように取り組んで欲しい。

(3) 意見交換

(会長)	空き家バンクの利用登録者数や改修補助については順調に推移しているが、なぜ菊池市はうまくいっているのか。
(事務局)	いろんな移住フェア等には積極的に参加している。また、自前のホームページも開設している。専門誌の中でも、県内では天草市ともに評価は高い方だと思っている。市として魅力はあるかなと思うが、空き家バンクについては、固定資産税の納付書発送時に情報提供のお願いなど、空き家物件の確保にも努力しているところである。
(会長)	菊池市は何らかの魅力があって、職員の方は気づいていないが、来られる方は気づいているのかもしれない。他市では伸び悩みなどを聞くことが多い。
(委 員)	人口が減っていく中で、市または民間ディベロッパーも含めて、住宅団地などのハード事業が必要ではないか。農地としての利用がなくなっている土地もあるので、商業地と住宅地の整理など、市が先行してきちんと誘導する必要がある。空き家対策も素材としてはいいのだが、活力は生まれない。地震があつて中山間の方が住宅を建てないといけな。市外に出ないような歯止めの施策が必要であり、目に見えて動く必要があると思う。 また、労働人口が足りないので、外国人研修生の受け入れしやすい地域を作る必要があり、小規模の事業者は単独で入れることは難しい。メインの引っ張っていく市の事業が必要だと思う。

(委 員)	外国人労働者をどう受け入れるのかなどを、企業には喫緊の課題であるので、この会議の中で勉強会的に開催することはできないのか。
(会 長)	委員の意見として、外国人労働者も含めた労働人口の減少対策についての勉強会が必要ということを、事務局の方で、誰が主体で、どう進めていくのか検討していただくこととします。
(会 長)	委員のみなさまの意見を通じて感じたことは、熊本県全般に地震という特異事例があつて、しょうがないという意見もありますが、本会議の委員のみなさまの意見は、むしろ本質的なものが多くありました。今後事業を推進していくうえで本質的な菊池市の課題について事務局も検討いただければと思います。

4. その他

参考資料にて、総合戦略に基づく交付金事業の取り組み（平成 27 年度からの実績と採択されている計画）について事務局より説明

平成 30 年度からの事業については、次回の会議で詳細を説明する。
今年度は、もう一度開催する。

5. 閉 会